



お祭りって人生なんだ
脈々と続く命。海と共に
生まれ、死んでいく

白河夜船
白の目々
高橋由為子
34
ぶりのお祭り

一日中、祭り囃子が聞こえてくる

浪谷の交差点並みの混雑
普段は人口が少ないのに
お祭りの時は帰ってくる

よそもんもOKだよ
田舎は人間関係が
煩わしいというけど
昔ながらの良さも
みんな仲間なんだね

腰痛で神輿がかつげない？
役員は
黒羽織に提灯
酒呑んで一緒に
いりやいーんだよ
コロナ前は
アメフラ氏も
かついでいた

ご寄贈いただいた本やCD、DVDなどを紹介するコーナーです。

ほかほかソフト

BOOKS



原発は大丈夫 と言う人々
【樋口英明著 / B6版 166p / ¥1300+税 / 旬報社】
2014年、福井地裁判事として関西電力大飯原発3・4号機の運転差し止めを認める判決を出した

元裁判官が出した本。現在、いつ来るかわからないとされている南海トラフ巨大地震。それでも原発は大丈夫と言う人々がいるが、それは全て空理空論ですとすることを具体的に分かりやすく数字をもとに説いている。



アアウをとってこい
【絵：秋野不矩 / 文：秋野癸巨矢 / 22cm×27cm 36p / ¥1700+税 / BL出版】
南太平洋の島につたわる海の民の物語。アキノイサムさんのお母さん（不矩さん）とお兄さん（癸巨矢さん）の文章による絵本。舞台となっているマイクロネシアは南北2200km、東西5000kmに渡って

星屑のように散らばっている珊瑚礁の2000余の島々。ここに住む人たちは陸というより海の中で暮らしている。
アアウは人の頭にかかる虹のようなものと言われ、素晴らしい力を人に与える不思議なものですが、とんでもなく恐ろしいところがあるので、誰一人とってこようとはしないものでした。



きんのおさかな
マケドニアの昔話
【ズスキコージ絵 / 八百坂洋子 再話 / 19cm×26cm 32p ¥440 / 福音館書店 / こどものとも】
世界各地に似たような話がある

昔話。これはブルガリアのマケドニア地域に伝わる話。金の魚を釣ったおじさんが魚を海に帰すと、それを知ったお婆さんが怒ってパンが欲しいとかしまいにはお城が欲しいと言い出して、、、と言うお話。日本にも似たような話がありましたか？



原発からの命の守り方
福島原発事故から12年を踏まえて【守田敏也著 / B5版 19p / ヨウ素剤を配ってよ@京都】
「原発からの命の守り方」というのは守田さんのテーマです。「原発はオワコン 原子力防災を進めよう」をキーワードにしましょう。